

「つながる・支え合い」 たより



生活支援コーディネーターの活動から

地域で「つなぐ・つながる」⑳

熱中症 予防

声かけプロジェクト in 附馬牛

<藤川商店>

「毎日暑いね！」と顔に汗しながら草刈り機械を軽トラックの荷台に乗せ給油に来るお客さんいました。給油中に水分補給の大切さや、農作業の時間帯を選び体に負担とならないように声かけをしました。



<鳥屋部商店>

商売をはじめ、長くお付き合いしている地域の方々も多い。毎日来るお客さんが顔を出さない時は、「どうしたのかな？体の調子でも悪いのか？」と地域の見守りの場や配達を頼まれた先では、安否確認の役割もはたし熱中症対策の声かけをしました。



<おきも商店>

毎朝大きなヤカンで麦茶を作って冷蔵庫で冷やしています。お店に来るお客さんはお年寄りが多いので「救急車で運ばれないように気をつけよう！」と麦茶を手渡し、熱中症予防の声かけをしました。



<小玉商店>

今年の夏は救急車が来るたびに「誰だろう…？」「熱中症かな？」と気になり心配しました。お店に来るお客さんだけではなく、修理や工事に出向いた先でも「水分摂れよ！」と熱中症へ気をつけるよう従業員一同声かけをしてきました。

▼どう伝える？熱中症予防
今年も熱中症警戒アラートが連日のように発表される長く暑い日々が続きました。そんな中、訪問先や戸外作業に汗を流している方に声かけや体調確認などを行って来ましたが、「今まで大丈夫だったから」と関心を示さない方も多く、熱中症予防の啓発方法について悩んでおりました。

▼思い切って声をかけてみる…
ある日、商店で買い物中の地域の方と店主さんが談笑している姿を見かけ、地域の力を借りられるかとも思い、地域の商店に声をかけさせていただきました。附馬牛町内には、長年にわたって地域の方々と深く関わってきた店が数多くあります。これらの店は、地域住民にとって、単に買い物をする場所

というだけでなく、居心地のいい居場所や見守りといった機能を担っている、非常に重要な存在となっております。このような店のご理解のもと、来店した方々にリーフレットを手渡し、熱中症予防対策の啓発に大きなご協力をいただき、附馬牛町の「地域力」に感謝した夏でした。

附馬牛のみなさんの地域力に感謝！

丸ごと相談員附馬牛地区 菊池 静子





毎年9月21日は、世界アルツハイマーデーであることを皆さんご存じでしたか？この日は普段から認知症の人を介護している家族の方、介護の事業所のスタッフ、地域包括支援センターの職員らが一体となって、認知症に関する啓発活動を行っています。



《認知症劇Story》

遠野のとある長屋に暮らしている、七兵衛とその息子家族の松吉とお菊、孫のお里。長年、一家の大黒柱だった七兵衛でしたが、近頃様子が変わってきまれました。認知症の七兵衛と息子家族がもたらす日常生活の中での奮闘。七兵衛は住み慣れた家で、自分らしく、人生の最後まで幸せに暮らして続けることができるのか、という内容で「財布がない!」、「家に帰りたい」、「元気がない」の三つの物語を上演しました。

▼世界アルツハイマーデーとは
毎年九月二十一日を、国際アルツハイマー病協会（ADII）が世界保健機関（WHO）と共同で一九九四年に「世界アルツハイマーデー」と制定したのが始まりと言われています。毎年この日を中心として、認知症に関心を持ってもらい、世界の患者と家族に援助と希望をもたらす事を目的として、認知症に関する啓発活動が各地で展開されています。

遠野市でも昨年に引き続きアルツハイマーデー記念イベントを開催しました。

▼名演技！ 認知症劇上演！
遠野ショッピングセンターとびあ一階セントラルコートにて、遠野物語ファンタジー制作委員会による「認知症劇」を上演、十五分の公演を三回行い、来場者へ認知症の症状や接し方などを演技で伝えました。

そのほか、マスクやクリアファイル等を配りながら認知症を広く知ってもらうための啓発活動、市内グループホーム及び認知症対応型デイサービス（資料展示や認知症サポーター養成講座の活動紹介、認知機能チェック体験などのコーナーを設置し、認知症に対する関心を高めていただきました。そして、昨年に引き続きめぐね橋（宮守川橋りょう）のライトアップを行っています。



出張！オレンジカフェ

▼認知症の人とともに歩む
市では、認知症の特性や症状の特徴を正しく理解することで、認知症への恐れや発見、差別をなくし、認知症があっても、尊厳と希望を失うことなく、家族や友人、ご近所たちと一緒に、地域の中で安心して暮らせる地域を目指して、ご家族、地域包括支援センター、福祉サービス事業所がつながりながら、さまざまな活動を行っています。

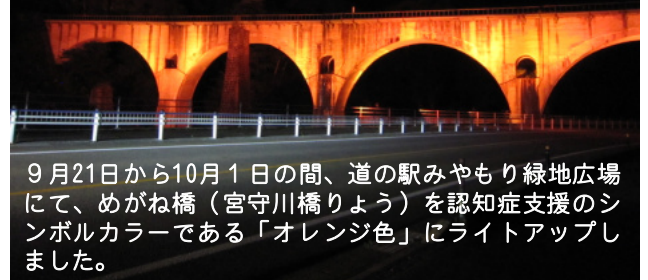
皆さんも認知症の人を支える人として、一緒に活動してみませんか。詳しくは、地域包括支援センター（でんわ〇一九八―六二―五二二）

認知症支援のシンボルカラーが “オレンジ” なワケ



認知症のシンボルカラーであるオレンジ色は、江戸時代に活躍した陶工、酒井田柿右衛門が造った赤絵磁器から来ています。夕暮れの柿の深くて豊かな柿色を苦心の末再現した赤絵は大いに世界を驚かせ、日本の磁器が世界に輸出されるきっかけになったそうです。そうしたところから日本から世界に広く知れ渡ることを願って、柿の色＝オレンジ色がイメージカラーになりました。

めぐね橋ライトアップ



9月21日から10月1日の間、道の駅みやもり緑地広場にて、めぐね橋（宮守川橋りょう）を認知症支援のシンボルカラーである「オレンジ色」にライトアップしました。

もう一つの世界とのつながり

～デジタル空間のコミュニケーションとその事例～



民話絵本読み聞かせ

インターネット時代の移り変わり

時代区分	Web1.0	Web2.0	Web3.0
時期	1990年代～ 2000年代後半	2000年代後半 ～2010年代	2020年代～
情報の流れ	一方的 (ホームページを 中心とした情報 発信)	双方向 (SNSを中心と した情報共有)	分散型 (分散管理により 情報が偏らない)
機器	パソコン	パソコン、スマホ	PC、スマホ、VR ゴーグル
サービス	ホームページ 電子メール	SNS(ソーシャル ネットワークシス テム)	NFT、DAOなど

インターネット技術が普及して約30年ほどが経過しています。今や目まぐるしい進化を遂げている昨今、パソコンを操作できない人しか利用できなかったものが、誰もが利用できる、生活の一部となってきています。

そして、今は発信された情報とつながることができたり、もつ一つの空間で人とつながることができたりします。今回は、もつ一つの世界でのつながりをテーマにしていきます。

▼デジタル空間における「コミュニケーションとその事例」

十月二日(月)、丸ごと相談員を始めとする相談業務に携わる職員を対象としたミニセミナーを開催しました。

講義として、「デジタル空間のコミュニケーションとその事例」と題し、市文化課の前川副主幹より、①インターネット時代の移り変わり、②SNS(ソーシャルネットワークサービス)の活用、③メタバースでの交流事例についてお話しいただきました。

▼SNS(ソーシャルネットワークサービス)の活用

SNSで代表的なものは、LINE(ライン)、Facebook(フェイスブック)、インスタグラムなどがあり、一つのサービスを介して利用者が双方向でやりとりができるような仕組みになっています。

そのような仕組みを活用し、SNS上で新たな利用者と出会うという機会もあるようですし、一方で遠野市立博物館では、X(旧ツイッター)の利用を二〇二〇年七月から開始し、定期的に遠野の日常風景や博物館に係る情報を発信、今や約四万人ものフォロワー(投稿を見ている人の数)を抱え、その数は市町村設置の博物館の中では日本一!。SNSの活用で入場者の増加、遠野に興味を持つ若年層の増加にもつながっています。



3 ※メタバース画像是講師から提供を受けています。

▼もう一つの世界で人とつながる空間(居場所)がある

セミナーの最後には、メタバースについてお話を伺いました。メタバースとは、VR(バーチャルリアリティ)技術で作られた仮想空間のことです。その空間では、アバター(分身のキャラクター)を使って活動ができるというものです。

病気や障がい、年齢、性差などに関係なくつながることができ、活動といっても、旅行や音楽ライブに行ったり、趣味、思考が同じ人と話したり、学んだり様々。民間企業、行政でも活用事例が増えてきています。

一方で、利用者自身にとっては都合のいいところにもなり、会いたくない人には会わないということが容易であるので、簡単に「分断」が生れてしまうことも。

現実の社会で、「生きづらさ」を感じている人が「もう一つ」の世界で、人とつながっていることがあるのかもしれないですね。

見つけた!

— 遠野東中学校区編 —

地域のお宝



日々の生活の中の当たり前の支え合いや行事・習慣などを、
私たちの「我がごと・丸ごと目線」で『地域のお宝』として紹介しています。



『声掛けられるとうれしいよ』

【土淵町】

地域のとある畑の一角。ひさしの下ベンチ横にピンクのシルバーカーがあれば、持ち主のいる目印です。目印に気付いたら、ちょっとした茶話会が始まります。話の内容は様々で、野菜の出来や、次の地域の集まりのことなど様々です。「声をかけられると嬉しいよ」と笑顔でお話されている様子に、こちらほっこりとした気持ちになりました。本人たちにとっては当たり前なのかもしれませんが、とても素敵でさり気ない地域のコミュニケーションの場を教えてくださいました。

『子供をはぐくむ地域の取り組み』

【青笹町】

秋の全国交通安全運動に合わせ、青笹町内で交通安全街頭指導が実施されました。青笹町地域安全協会の皆さんのほか、地域住民の方の協力もあり、「おはようございます!」と元気に挨拶をする小学生たちを見守りながら交通安全を呼びかけていました。青笹町では、交通安全指導のほかにも、様々な団体により地域の子どもを育む取り組みが行われています。



『暑い中おつかれさまでした』

【上郷町】

ふれあいホーム上郷の周辺環境整備で草刈り作業を行っている様子です。

猛暑の中にもかかわらず、上郷町内在住の男性が作業に協力してくれました。これからも地域内の様々な課題に対して、みなさんが活躍できる場を作りつつ、地域一丸となって課題の解決に取り組んでいきたいと思ひます。

